



んだじゅ通信 Vol.11

Contents

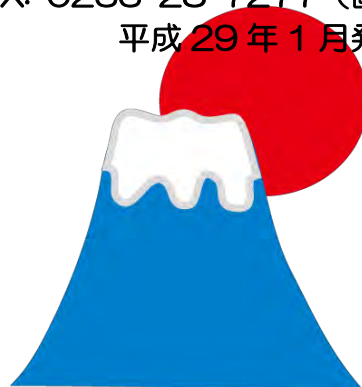
1. 新年のあいさつ
2. 医療連携懇談会の報告
3. 地域の医療機関
～大蔵村診療所～
4. 新任医師の紹介
5. シリーズ栄養レシピ
6. もがみネットの紹介

山形県立新庄病院地域医療部

TEL: 0233-22-5525 (代表)

FAX: 0233-28-7277 (直通)

平成29年1月発行



1. 新年のあいさつ

院長 八戸茂美

あけましておめでとうございます。

旧年中は地域連携におきまして大変お世話になりました。とりわけ、去る11月に開催された「医療連携懇談会」フリーディスカッションで、皆さまとグラス片手の自由闊達な意見交換が印象に残ります。ありがとうございました。

さて、昨年は機能分化と在宅医療移行のさらなる推進に重点をおいた診療報酬改定で始まりました。当院上半期は、入院患者延数は前年よりやや減少しましたが、在院日数の短縮や外来患者延数の増加、入院・外来診療単価の上昇により3年ぶりに黒字化した前年度より、わずかながら経常収支の改善を見ることができました。

しかし、人口減少、外来初診患者の減少等により病院運営はこれからも厳しい状況が続きます。2025年に向けて国や自治体が地域包括ケアシステムの整備を進める中、当院も「地域包括ケア病棟」のさらなる有効かつ効果的な運用を図っていくつもりです。





昨年のトピックは、2017年度開始予定だった新専門医制度が1年延期されたことでしょう。この一報は「総合診療専門医」プログラム策定を進めていた私どもにも呆然の感がありましたが、結果的には拙速な実施による研修医と地域医療への多大な影響に配慮した大英断であったと思われまます。連携施設としてご準備いただいた先生方にも大変なご苦勞をおかけし申し訳ございませんでした。ひとまずは日本プライマリ・ケア連合学会「家庭医療専門研修プログラム」を申請し体制を整えてまいりますので、引き続きご協力の程よろしくお願い申し上げます。

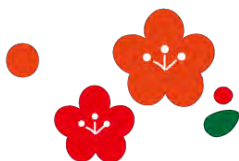
また、昨年末には病院改築に向けた「山形県立新庄病院改築整備基本構想」の最終案が完成しました。そこでは2025年の患者動向を想定し必要病床として300～340床程度を整備すること、独立した救急部の体制整備として「地域救急救命センター等の検討」との文言があります。これを受けて地域医療構想の実現に向けた最上地域医療保健協議会が開催され必要病床数の確保に向けた議論はいよいよ熱を帯びてきました。

しかし、いずれの病院も医療人材の確保に頭を悩ませているのが現状です。対応策の一つとして、昨年6月に最上総合支庁のご尽力で「第一回最上地域医療人材確保・育成及び定着に係る検討ワーキング」も立ち上がりまました。これからの成果が期待されるところです。

このように、数年前とは比べようのない数の会議が動き出し、今まで以上に多職種の皆さまでお会いする機会が増えたことは喜ばしいことでもあります。地域の連携と活性化が進んできたことを肌で感じた1年でした。

260年の歴史を誇る新庄まつりもユネスコ無形文化遺産に登録されたことですし、この機運に乗じて今年はさらに病院広報に力を入れるとともに、大学等と連携し、地域医療機関の看護師及びコメディカルスタッフの研修を支援する環境も充実させていきたいと思っております。

また、来年度は、病院改築に向け次のステップとなる「基本計画」が策定される予定です。最上地域の医療ニーズに的確に対応するとともに地域全体の多職種の方々との連携をさらに深め、地域唯一の基幹病院としてますます皆さまの信頼を得られる病院にしていきたいと思っておりますので、どうぞ本年もご支援の程よろしく願いいたします。





2. 医療連携懇談会の報告

地域医療部

平成28年11月17日(木)、地域の病病連携・病診連携をより一層強化するため、新庄市最上郡医師会との共催により「第5回医療連携懇談会」を開催しました。



地域の医療機関の先生方や最上総合支庁、当院の職員など総勢55名が参加し、当院に新たに赴任した医師の自己紹介をはじめ、参加した地域の先生方から一言いただくなど「より顔の見える関係づくり」を進めるための懇談会となりました。

また、「最上の救急医療の現状と課題」と題してフリーディスカッションを行い、新庄市最上郡医師会の三條会長、同じく杵瀧理事、最上保健所の井瀧所長、当院救急部の長瀬部長よりパネラーを務めていただき、最上地域の救急医療についての問題点や今後取り組むべきことなどを発言していただきました。



新庄市休日夜間診療所で診療を行う際の様々な課題や、当院救急外来との役割分担、町立病院の救急外来の現状、在宅看取り患者への対応、将来予定されている新庄病院改築への意見など、パネラー以外の先生方からも活発な意見が述べられ、たいへん盛況なディスカッションとなりました。

お忙しいところ御参加いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。





3. 地域の医療機関

大蔵村診療所 所長 荒川光昭

かかりつけ診療所、在宅療養支援診療所としての役割

＝大蔵村診療所＝

大蔵村の清水地区にある診療所は、平成3年に開所した村唯一の医療施設です。高齢化が進む地域において住民に身近な医療施設として、保健や福祉、介護との連携を図りより良い地域医療の確保に努めております。

大蔵村診療所の紹介

大蔵村診療所は、内科・外科を標榜する医科と歯科があり、医師2名、歯科医師1名体制で診療を行っております。

外来診療は、何でも相談できる村民のかかりつけ医をめざし、子供からお年寄りまで幅広い健康問題に対応しております。検査も検診率の高い大蔵村の現状に即して、CT検査 上部・下部内視鏡検査 頸部・乳腺・腹部超音波検査 血液生化学検査など一次精査が可能です。通常の外来時間の他に、金曜日は仕事で忙しい方のために夕診を行っております。歯科は、幅広い口腔治療を行っており、予約制となっております。

在宅療養支援診療所として訪問診療を中心に、365日24時間在宅患者に対応できる体制を整え、体が不自由になったり認知症になったとしても安心して在宅で過ごせるように支援しております。認知症サポート医、緩和ケア、難病疾患対応の講習を受け、患者さんが希望されれば可能な限りどんな病気の人でも家で過ごせるように努めております。また住み慣れた我が家で最後までを支えます。そのために県立新庄病院地域医療部や、特養老健施設、薬局、訪問看護・介護ステーション、デイケア、デイサービス、ショートステイ等の介護施設との連携、ケアマネージャーや地域包括支援センターとの多職種連携をして医療から介護への切れ目のない支援を行っております。歯科も在宅患者さんへの往診を行っており、口腔衛生や最後まで食べられるよう嚥下の問題にも取り組んでまいります。



医科スタッフ



歯科スタッフ



村民の健康を支えるために、何よりも予防、そして早期発見・早期治療、生活習慣の改善が大切だと考えております。検診事業やヘルシーティース事業 予防接種、学校医、産業医としての業務や健康づくり推進協議会委員、健康教室や老人クラブ、婦人会、地域懇談会での医療講話など保健事業にも積極的に参加しております。大蔵村の小中学校が、虫歯のない学校表彰で文部科学大臣表彰を度々受賞している事や全国的にも高い検診率での表彰など多くの受賞があるのも診療所が一助となっていると考えております。



待合室

県立新庄病院の研修施設として、また、自治医科大学の学生の研修施設として協力をさせていただいております。地域医療、在宅医療を学ぶ場としての環境がそろっているためと思っております。私たちスタッフも知識と技術の向上のため常に努力し、村民に信頼され地域と共に在る診療所を今後もめざしてまいります。



大蔵村診療所

※「んだじゅ通信」では、地域の医療機関や福祉施設等からの投稿を募集しております。日頃の取組み、施設情報、お知らせしたいこと等ありましたら、新庄病院地域医療部まで御連絡ください。なお、発行は年3回程度を予定しております。



4. 新任医師の紹介



【氏 名】篠村 友紀
【診 療 科】整形外科



【氏 名】川合 唯
【診 療 科】耳鼻咽喉科
【あいさつ】

医師5年目の川合と申します。
10月から山形大学より転勤となりました。
よろしく申し上げます。



【氏 名】鈴木 啓介
【診 療 科】放射線科
【あいさつ】

よろしくお願ひいたします。



【氏 名】小林 信也
【診 療 科】研修医（小児科）
【あいさつ】

昨年10月から新庄病院に移ってきました。
平成29年3月まで、こちらに居る予定となっております
ので、どうぞよろしくお願い致します。





5. シリーズ 栄養レシピ

栄養管理室 栄養管理主査 武田美保子

“血管いきいき” 注目の栄養素 n-3 系脂肪酸 DHA、EPA

今年の健康診断の結果はいかがでしたか？

冬こそ気になる高血圧や動脈硬化。今回は n-3 系脂肪酸のひとつ、DHA（ドコサヘキサエン酸）と EPA（イコサペンタエン酸）に注目しました。

高血圧患者では魚油由来の n-3 系脂肪酸は積極的摂取が推奨されています。魚だけを多く食べれば降圧できるわけではありませんが、多くの研究で効果が報告されています。

また、動脈硬化性疾患予防のための食事では『n-3 系多価不飽和脂肪酸の摂取を増やす』という項目が挙げられています。

さて、魚には n-3 系脂肪酸が多く含まれ、特に青魚には 100g あたり約 3g 程度含まれます。青魚を毎日続けられなくても、様々な魚を毎日 1 切れ程度食べることをお勧めします。

☆ ぶりの照り焼き ☆

★n-3系脂肪酸の食事摂取基準		目安量
30～49才	男性 2.1g	女性 1.6g
50～69才	男性 2.4g	女性 2.0g
70才以上	男性 2.2g	女性 1.9g

エネルギー285kcal 蛋白質 18.3g 脂質 16.2g 塩分 1.7g EPA 0.752g DHA 1.36g (1人分)



材料／2人分

ぶり	2切れ	80g × 2
食塩		少々 (0.2)
日本酒		2g (小さじ 1/2 弱)
小麦粉		3g (小さじ 1)
サラダ油		2g
a	しょうゆ	大さじ 1
	みりん	大さじ 1
	砂糖	小さじ 1
付け合わせ		
焼きネギ		60g
赤カブの甘酢漬		10g

作り方

1. ぶりに塩と酒を少量ふりかけ、5分程度おく。その間、aの調味料を混ぜておく。
2. ペーパータオルで水分をとり、小麦粉をまぶす。
3. フライパンを火にかけて油を入れ、ぶりを焼く。片面に焼き色がついたら裏面も焼く。フライパンの空いているところでネギも一緒に焼き、先に取り出す。
4. 一旦火を止め、フライパンに残った余分な油をペーパータオルで拭き取る。
5. あら熱が取れたフライパンにaのたれを加え弱火で約5分煮詰めながらぶりからめる。
6. 器にもる。

【参考】 日本人の食事摂取基準 2015年版、動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2012年版

6. もがみネットの紹介

地域医療部

＝「もがみネット」とは＝

山形県立新庄病院の診療情報を患者さんの同意のもと、インターネットを利用して地域の医療機関等が利用できるため、新庄病院とかかりつけ医等との間で継続した診療が可能となるものです。

＝利用できる医療機関等＝

現在、地域の診療所、病院、歯科診療所、介護施設（医師・歯科医師）が利用できます。

加えて、訪問看護ステーションや薬局、介護施設（医師・歯科医師以外の職種）も利用できるよう検討しています。

＝公開している項目＝

患者基本情報、プログレスノート（診療録）、注射情報、入院期間、退院時サマリ、病名情報、食事情報、看護サマリ、アレルギー情報、処方情報、放射線画像一般撮影、3D画像、CT、透視画像、MR、心カテ・アンギオ画像、内視鏡レポート、放射線科レポート、生理検査情報

＝費用＝

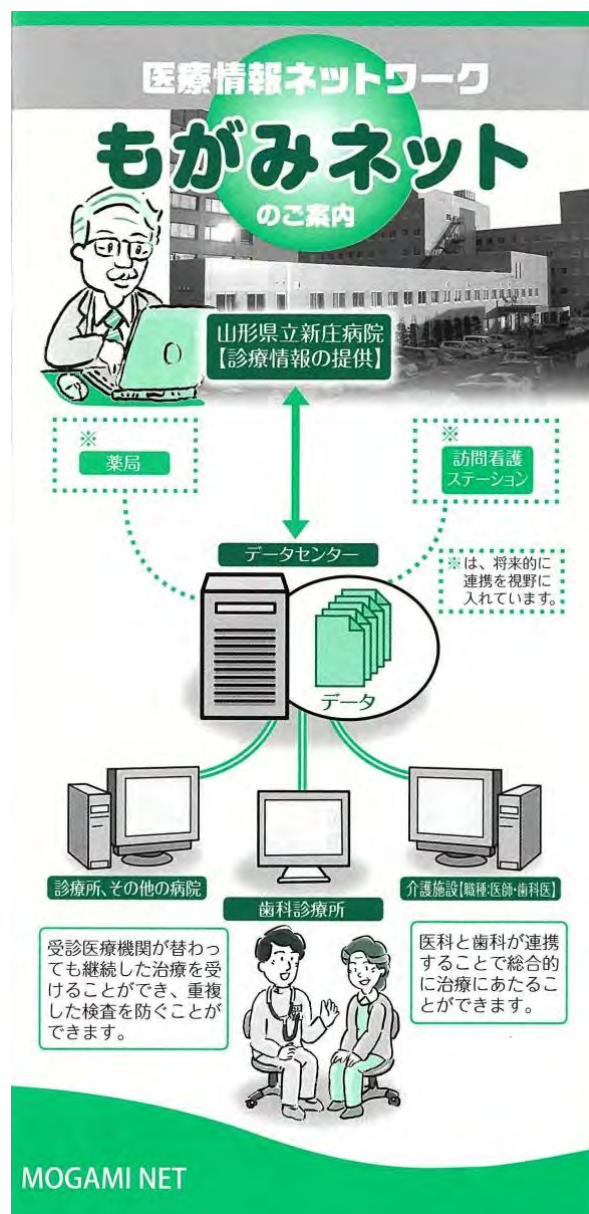
無料で利用できます。

インターネットに接続できるパソコン(端末)のみ準備ください。

専用端末である必要はありませんが、ウィルス対策等は必要です。

＝詳しく知りたい＝

新規に申し込みたい場合や詳しく知りたい場合は、最上地域医療連携推進協議会（事務局：最上保健所 電話 0233-29-1257）または、新庄病院地域医療部へお問い合わせください。



新規加入施設の紹介

平成28年12月から「須藤医院（新庄市）」様と「よしだ耳鼻咽喉科クリニック（新庄市）」様に、平成29年1月から「こくの医院（新庄市）」様に御加入いただきました。